

令和3(2021)年「正覚寺報」9月号

お知らせ

コロナウイルスワクチンは二度目の接種も済めば、二週間程で抗体ができ少しは安心できると云われております。因みに住職も一年前に多分当時のウイルス感染で被っためまい(目眩)がなくなり助かっております。

滋賀組では、親鸞聖人讃仰布教大会を初め少なからぬご法座が中止のやむなきに至っていることは残念なことであります。

正覚寺では、八月の歓喜会は、お若いお客僧を京都からお迎えするのが憚られ急遽中止のやむなきに到り、楽しみにして戴いていた御門徒の皆様方には申し訳ないことを致しました。

一方、仏壮、仏婦のお聴聞の会は、少人数の集まりであり、きちんとマスクをしてご参加戴ければ問題なく営めます。滋賀組では寧ろ珍しくなったご法座であり、総代様方始めご参加の皆様方には誇りを以て取り組んで戴きますようお願い致します。

記

仏壮お聴聞の会(9月5日(日)20時~)

正覚寺彼岸会&仏婦例会(9月18日(土)
(14時~及び19時半~)

コロナ時代をどう乗り越えるか

「コロナの為ご法座を中止する」というのは、物事の本質的解決ではありません。

ご法座に会い、如来様のお育てに遇うという目的を達成するには、どうしたらよいかを考えて戴くのが本質的な課題であります。

因みに「お聴聞の会」の様な実践運動は、営むこと自体に意義がありますので、コロナを理由に簡単に中止したのでは元も子もありません。後の再開は容易ではありません。

自慢にもならない話題を一つご紹介しまし

よう。東京だけでなく滋賀県も緊急事態宣言の対象になり、「県境を跨いで移動しないで下さい」との国の要請が出るようになったので、今度の活動は一ヶ月位延期できないものでしょうかと関係機関に相談しますと、お客様から要望が無い限りできませんという。

致し方なくいよいよ県境を跨いで東京・埼玉の現地に赴くと、確かに、コロナウイルスに注意はしなければならないので、会議室参加は、限られたメンバーに認め、その他の関係者は、Web会議で参加させるという。

終了会議は、十帖くらいの会議室に十数名の重要メンバーがマスクをして集まり、一時間近くかけて発見された企業体の課題の発表に耳を傾けて戴く。発表内容は、プロジェクターで表示されるので大変分かり易い。これが企業体での会議の様子であります。

ご本堂でのお聴聞のご法座活動とは何か

一方、三十帖位のご本堂に十人足らずの人数が集まるお聴聞の会は、前記企業体の会合に比べれば余程ゆったりしています。

一時間余りの間に、宗祖讃仰作法又はお正信偈を上げ、お念仏し、御法話を慶びます。

読経と称名は、簡単な行ではないかと揶揄する人が居る。読経は、釈尊がお讃え下さった阿弥陀如来のみ教えをお聞かせに与るのです。その内容を実践的に讃仰させて戴くのが衆生に赦されたお念仏の意義であります。

そのように頂戴出来るようになるには、長い間のお育てが必要になります。

十方世界の無量の諸仏(今生では、お釈迦様)が讃嘆なさり、実践的にお念仏して下さったみ教えを、お釈迦様に付き従い、信心の人に随念して(付き従って)お念仏させて戴く。これが衆生のお聴聞であります。合掌。